

高崎山日本猿集団における相互作用と行動発達に関する研究

(分担研究：相互作用と乳幼児の心理行動発達に関する基礎的研究)

三吉野 産 治[※]、佐々木 清 美^{※※}

要約：61年度に高崎山日本猿のなかで、人工飼育を行った捨て子猿に、人に近似する“指しゃぶり”行動がみられた。63年度は10組の母子ペア猿について、“指しゃぶり”の発現とその背景について観察報告した。

見出し語：日本猿、指しゃぶり、母子相互作用。

研究目的：高崎山自然動物園日本猿の集団に、母猿が養育を放棄した新生児子猿を人工飼育中にみられた幾つかの異常行動のうち、人に最もよく類似した“指しゃぶり”行動が、比較行動学上、母子相互作用とのかかりをもって、どのような背景因子によるものかを明らかにすることを研究目的とする。

研究方法：昭和62年4月より、62年中に出産した母子猿のペア12組を登録。個体識別を明確にして、出産直後より、主としてビデオに撮影し、また必要な時は写真撮影を行ない実証的にアプローチした。また猿の行動が記録できない場合はスタッフの肉眼による観察記録を行った。観察の場所は、主として餌づけを行っている所謂猿寄せ場、必要な時は高崎山山中でも観察を行った。

この12組のペアのなかから、特に“指しゃぶり”類似行動が2例に観察されたので、昨年報告の人工飼育、捨て子猿の“指しゃぶり”行動と比較検討して報告する。

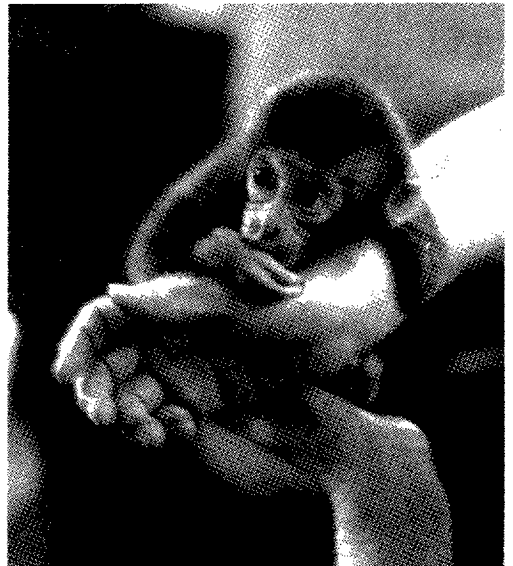
※ 国立療養所西別府病院 (Nishi Beppu National Hospital)

※※ 高崎山自然動物園 (Takasakiyama National zoologic environment)

観察の実例

指しゃぶり行動

1. 捨て子猿の指しゃぶり (写真1)



昨年報告した捨て子猿は、生後5日目頃より、指しゃぶりが目だつようになった。

特に、授乳後空になった哺乳瓶を、口から離すと自分の右手母指をくわえる。十分哺乳し、満腹の状態で大い呼吸をゆっくりしつつ、眠ってしまう。

約20分間眠った後、子猿の寝床(浅い箱)に寝かせると、目を覚ます。そこで、子猿の身体

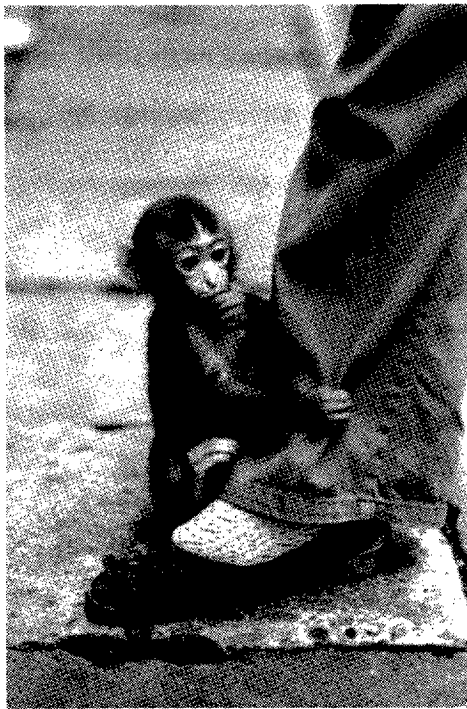
を軽く叩いてやると、指を「チュッ、チュッ」と音をたてて吸啜し、再び眠ってしまう。

約3時間の睡眠後、覚醒した子猿は、泣きはじめ。抱くと泣きやみ、指しゃぶりははじめるという行動の繰り返しであった。

このような行動も、生後10日目頃までで、その後は、徐々に覚醒時間も長くなり、探索行動や、遊びが活発になり、指しゃぶりの回数も減少している。

授乳後の約10分間と、睡眠の前後には、指しゃぶりが頻繁に行われた。

人間からの隔離を試みた、生後89日目からは、代理母とひき離されたことによるショックからか、甘えの度合いが重症になり、代理母にベッタリくっついてることが多く、又サル仲間との交流も減少し、ほとんど1日中指しゃぶりをしていた。(写真2)



このような状態にあるため、顔貌もうつ気味の状態を呈し、以前の明るさは、ほとんど消失しているように見えた。

このような行動は、行方不明になる生後231日目まで持続した。

2. 次に昭和62年観察した母と子猿13組中の指しゃぶり類似行動について報告する。(表1)

野外集団に於ける出産個体、昭和62年4月～8月までに出産した12組中の母子猿を観察した結果、指しゃぶりに似た行動が2組(※印)に観察された。

表1 昭和62年の観察個体12例

群	母ザルの名前	母ザルの年齢	分娩日	コザルの性別	コザルの名前	分娩経緯	母ザルの群内順位	備考
A	ジュン	18歳	4月28日	♀	エム	経産5子	上位	
A	シキミ	8歳	5月20日	♂		初産	中位	
A	ノドカ	7歳	5月29日	♀		初産	上位	
B	ケイ	9歳	5月9日	♂	マイケル	経産3子	上位	※指しゃぶり類似行動がみられた
C	ジューサー	11歳	6月7日	♂		経産2子	中位	コロの母
C	サヨ	22歳	6月15日	♂	キヨシロウ	経産9子	中位	
C	ナヨコ	5歳	7月31日	♀		初産	上位	
C	イレブン	24歳	8月3日	♂		経産8子以上	下位	
C	コタブ	7歳	6月22日	♂		初産	上位	9/14 コザル死亡(生存日数 83日間)
C	ホック	5歳	7月16日	♀		初産	上位	8/11 コザル死亡(生存日数 25日間)
C	エミ	15歳	7月4日	♂	マリオ	経産7子	中位	
※(A)	マルコ	6歳	7月7日	♀	ピーチ	初産	下位	エミが10日に続く指しゃぶりに類似行動がみられた

表2 昭和62年 観察個体の背景

群	名前	生年月日	順位	S63.2.6 現在				出産数計
				♂	♀	計	備考	
A	ジュン	1967生 (20歳)	上位	(1) 1975 (♂) ♀ コジュン (2) 1977 5/27 ♀ クイチ(♂69) (3) 1979 5/23 ♀ ミジュン (4) 1981 5/21 ♀	(5) 1982 5/20 ♀ (6) 1984 5/14 ♀ (7) 1985 6/1 ♀ (8) 1987 4/29 ♀	♂ 2 ♀ 6		
B	ケイ	1978生 (9歳)	上位	(1) 1984 6/2 (♂) ♀ ルイジー (2) 1985 5/29 ♀ エル	(3) 1987 5/9 ♀ マイケル	♂ 1 ♀ 2		
C	ジューサー	1976生 (11歳)		(1) 1985 6/23 (♂) ♀ コロ	(2) 1987 6/7 ♀	♂ 2		
C	サヨ	1965生 (22歳)		(1) 1974 (♂) ♀ (2) 1976 7/13 ♀ (3) 1978 6/21 ♀ サヨコ (4) 1979 8/22 ♀ ケサヨ (5) 1981 6/27 ♀	(6) 1983 6/6 ♀ (7) 1984 7/17 ♀ (8) 1985 7/28 ♀ (9) 1987 5/15 ♀	♂ 6 ♀ 3		
C	エミ (母-ジュナ)	1972生 (15歳)	中位	(1) 1977 (♂) ♀ (2) 1979 ♀ (3) 1981 ♀ (4) 1982 ♀	(5) 1984 ♀ (6) 1985 ♀ (7) 1987 7/4 ♀	♂ 1 ♀ 6		
C	イレブン	1963生 (24歳)	下位	(1) 1975 ♀ (初産かどうかは不明、 遠くから個体識別をした) (2) 1977 ♀ (3) 1979 ♀ (4) 1982 ♀ (5) 1984 ♀	(6) 1985 ♀ (7) 1986 ♀ (8) 1987 ♀	♂ 5 ♀ 3		

(表2)には、観察個体12例の背景を示す。ケイ、B群で9才、現在までにオス1頭、メス2頭、計3頭。次にエミ、C群で15才、現在までにオス1頭、メス6頭、計7頭を出産している。

第1例、表1の4行目に示す。所属B群、母猿の名前ケイ、年齢9才の第3子、子猿の名前マイケル、性別オス、5月9日生。

具体例

生後18日目、ケイのまわりを観光客がとりまく中で、マイケルは、母に抱かれていた。母の腕の中から出ようとしたので、母猿ケイは、しっ

かり抱きこみマイケルの動きを抑制した。その後、マイケルは自分の左手母指を口に入れた。

生後19日目、マイケルが観察者のズボンをさわる。それを見たケイは、すぐにマイケルを抱く。これに抵抗する子猿のマイケルを母猿ケイは、抱きしめて動きを抑制した。その後、左手母指、示指、中指の3本を1度に口に入れた。

生後22日目、マイケルが、観察者の足元によってきた。ケイは、すぐに抱く。動きを抑制されたマイケルは、母猿ケイの腕の中から3回出ようとしたが失敗し、ケイの左前腕に咬みついた。これに対し、ケイは無反応であった。この後、マイケルは、左手の指5本を1度に口に入れた。

生後32日目、ケイの腕の中から出ようとする、マイケルは腕や足をつかまれ、動きを抑制される。その後、左手母指を口に入れた。

具体的な指しゃぶりの観察は、この5日間のみで、その後は観察されていない。

ケイはマイケルの歩行訓練を生後10日目から行っている。

しかし、ケイは人に対する警戒心が、特に強いためか、マイケルの行動を抑制したと思われる。

ケイは、寄場に餌を食べに行くために、子猿を迎えに行ったが、母に従わない子に対するしつけの行動を観察したもので、この後は胸に抱き、寄場へ移動した。

このように、母猿ケイの行動に、子猿のマイケルは、自分の指を口に入れたり、又母猿の前腕を咬むという攻撃的の反応を示した。このような行動を何回か観察した。

第2例、表1の下から2行目に示す。

所属C群、母猿の名前エミ、年齢15才の第7子、子猿の名前マリオ、性別オス、7月4日生。

それと最下段の所属A群、母猿の名前マルコ、年齢6才の第1子、子猿の名前ピーチ、性別オス、7月7日生の2組の観察について述べる。

(表3)にエミが、マルコの子を養育するまでのプロセスについて述べる。

マルコは初産で、難産の為か、出産当日(7月7日)より、子猿の哺育を放棄し、3日間抱かなかつた。ところが、3日目のヒル、12時40分にC群エミ、15才の他の母猿が、捨て子猿ピー

チを抱いた。

ピーチの指しゃぶり類似行動は、2回観察されている。

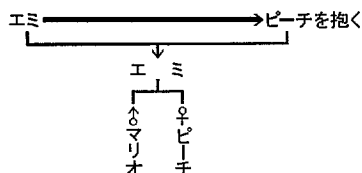
生後91日目、実子オスと養女の2匹を背中にのせて移動中、養女は右手母指を口に入れた。

生後118日目、養女だけを背中にのせている。この時、左手母指を口に入れた。

実子のオスは、ジャングルジム(高崎山保育園)で、他の子猿と遊んでいる。

日数	内容	日数
0	C群 エミ 15歳(中位) 経産 7子出産 7月3日 ♂ 出産(マリオ)	
1		
2		
3		
4	A群 マルコ 6歳(下位) 初産 7月7日 ♀ 出産(ピーチ) 午前11時、母親のいない新生児(ピーチ)を発見。11時40分、ピーチの母親(マルコ)を探し出すが、ピーチを抱かずにA群のサル達と山に引きあげる。 マルコを発見した時、マルコは眼瞼の腫脹顔面蒼白を呈し、寄場の隅でじっとしている。甘藷のエサも採取せずに山に引きあげたので、ピーチを保護する。	0
5	7月8日、マルコがピーチを放置した場所へピーチを置くが、この日もマルコはピーチを抱かずに引きあげる。	1
6	7月9日、雨天の為、ピーチの健康状態を考慮し、寄場に出すことを中止する。	2
7	7月10日、午前9時からピーチを寄場にある通称保育園と呼んでいるジャングルジムに置く。	3

午後12時40分 エミがピーチを抱く!



第1回目の生後91日目の観察で見られたその背景には、養女子猿は、実女子猿に母の乳首を占有される事が多く、乳首を含み、哺乳する機会が少なく、要求しても母猿は、特に与えようともしない事が多く、たまたま哺乳のチャンスがきても、移動のために、母猿の背中に乗っている。この時、右、左の自分の指をしゃぶったのが観察された。

それ以後は、指しゃぶりは観察されていない。

考察及びまとめ：私達は、61年に観察した人工飼育による捨て子猿にみられた指しゃぶり行動に注目し、62年、今回の発表で12組の母子ペア個体を観察し、2例のみに指しゃぶり或いは、類似行動を観察した。これら2例は、それぞれ母猿のしつけや、養女という特殊な例について観察した指しゃぶりであった。

第1例は、警戒心が非常に強く、子猿の行動を抑制する事が極めて多い例であった。

第2例は、初産で難産のためか母と子の絆がきれた子猿が、偶然、滅多に観察されない養女縁組のかたちをとった例で、実子と養女の組合せという例であった。

このような特異な背景のもとにみられた指しゃぶり行動について観察した結果は、高崎山という特殊な場面であり、純粋な野生猿とは異なるので、この事が直ちに全体に通用するかどうかは、例数も観察の時間的・場所的（高崎山の山中）、又、継続性にも問題があって困難である。

しかし、二木 武の報告による人間の乳幼児にみられる「指しゃぶり」についての考察で述べていること、すなわち「スキンシップ」が乳幼児の情緒不安定に重要な役割りを果たしているといわれるが、それ以上に敏感な口腔からの刺激は、それ以上の情緒安定ないし、不安静止効果があると考えられると述べている、乳児が吸啜をすることは、栄養摂取以外に不安静止作用があり、これが「指しゃぶり」「おしゃぶり」に発展し、また後で、「指吸い」「タオル吸い」などの習癖に発展することとなる。と述べている。

出生直後からの授乳と哺乳は、実際の母子関係のスタートとなり、乳児の社会性の発達に大きな役割りを演ずるものと考えられ、このように猿にも指しゃぶりが観察された事が、母子相互作用の原点として比較行動上、興味のある事であった。

Abstract

A study on Japanese monkey have unusual behavior as humanlike sucking own finger phenomena in TAKASAKIYAMA natural zoologic enviroment.

Sanji Miyoshino , Kiyomi Sasaki

We observed a behavior as humanlike sucking own finger on the baby monkey, who had a deprivation of bringing up to mother monkey in 1986, and then we search into the background of unusual behavior in group of 12 pare mother and baby monkies in 1987.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:61 年度に高崎山日本猿のなかで、人工飼育を行った捨て子猿に、人に近似する“指しゃぶり”行動がみられた。63年度は10組の母子ペア猿について、“指しゃぶり”の発現とその背景について観察報告した。